

**ブロイラー飼育で地域の農業振興と**

**鶏糞の有機肥料活用及び雇用の創生を**

**大山町認定農業者 株式会社 関西ファーム鳥取事業所**

**代表取締役 井上 薫**

## 1. はじめに

### 【関西ファーム鳥取事業所設立の経過】

前身は、大山町の■■■■が生産者として、ブロイラー飼育管理経営を行っておられましたが、輸入外圧等によりブロイラー相場が低迷し生産者個人としては経営が円滑にいかなくなりました。そこで、廃業することを決断し、飼料会社に「売却したいので買い取ってもらう業者を探してもらいたい」と要望を出していたところ、兵庫県にあるブロイラー全般の事業（ブロイラーの生産、赤どりの生産、黒どりの生産販売他）を行っている関西ファームが農場の増羽のために鶏舎を探しており、飼料会社の紹介で、平成5年に■■■■の農場資産を買い取って経営を引き継ぎました。従業員他はそのままの状態を引き継ぎ経営を行うこととなり、鶏舎14棟（4,439㎡）で、■■■■羽/年間を関西ファームとしてブロイラーの生産事業を行うことになりました。

平成28年1月には新たに鶏舎を新築して増羽を図り、同年5月には関西ファーム鳥取事業所を開設して、現在、17棟（5,842㎡）で、■■■■羽/年間の経営を行っています。また、増羽したことから常時業務をしてもらいたいために、パート従業員から1名正社員として採用し、今後も雇用の創出をしていきたいと考えています。

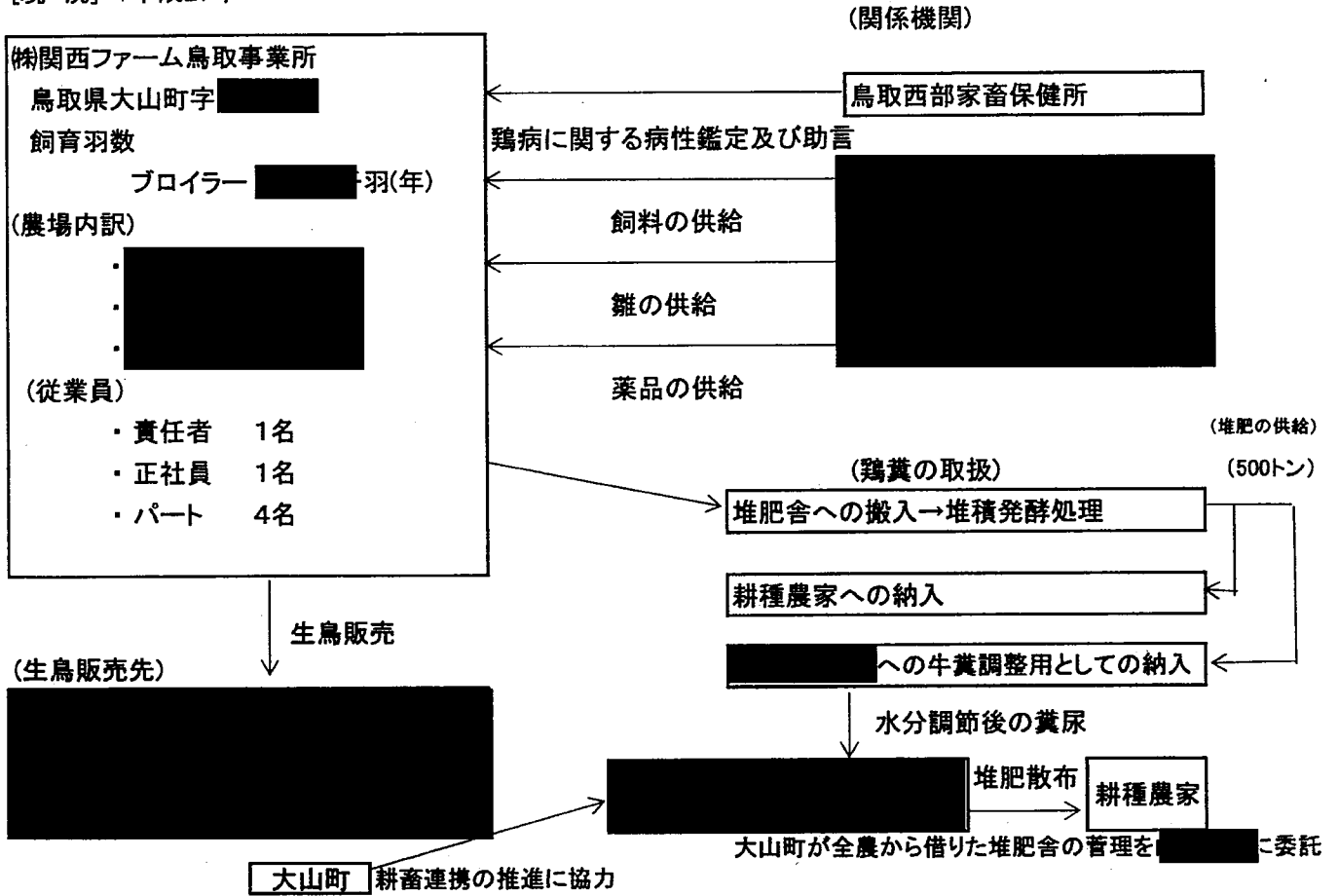
鶏糞については、地域の耕作農家へ有機肥料として畑に還元しておりますが、現在でも堆肥舎のスペースが狭いため十分な好気発酵処理が出来ないまま耕作農家他に供給しており、これも改善したいと考えております。

よって、今後、増羽した分の鶏糞を円滑に処理することと、全体の鶏糞の好気発酵処理を十分行うために新たに堆肥舎を作り、ブロイラー経営を円滑に進めたいと考えます。

今後についても、大山町を基盤として、ブロイラー生産の規模拡大を行い、鳥取県内の■■■■への供給量を増やし、地域産業の発展に貢献していきたいと考えています。

2. ㈱関西ファーム鳥取事業所の事業内容【現況と目標 フローチャート図】

【現況】平成27年



【目標】平成31年



このことにより、経営の安定を図り、産業の振興と有機肥料の農地還元により循環型農業の体制及び地域雇用を図りたいと考えております。

### 3. 経営の現状

#### (1) 生産、経営の現状(平成28年)

作目	面積	生産量
ブロイラー生産	鶏舎 5,842㎡	

#### (2) 労働力

氏名	年齢	役職	年間労働日数	備考
		鳥取農場責任者	285	
		正社員	288	
		正社員	285	平成28年4月採用
		正社員	275	平成28年4月採用 (パート⇒正社員)
		パート	285	
		パート	285	
		パート	260	

#### (3) 農業機械及び施設状況

機械・施設名	規模等	導入日
ブロイラー鶏舎(開放)	93㎡×9棟	S. 47年
“(ウインドレス)	334㎡×2F/3棟	S. 50年
”	426㎡×2F/1棟	”
”	373㎡×2F/1棟	”
”(システム)	472㎡×2棟	H. 28年1月
”	459㎡×1棟	”
堆肥舎	535㎡×1棟	S. 50年

#### 4. 現状の課題

##### (1) 鶏糞の課題

ブロイラーの生産拡大のため、平成28年1月に鶏舎3棟の新築を行ったが、現在の堆肥舎だけでは狭く、発生する鶏糞が処理できない。

現在も十分な好気発酵処理ができておらず、新たな増羽分の鶏糞が増えると保管場所もなく、好気発酵処理ができない。また、十分な好気発酵処理ができなければ、悪臭が発生する肥料を耕種農家に供給することになってしまうため、良質な肥料製造が急務となっている。

##### (2) 生産コストの課題

新鶏舎と古い鶏舎とでは、古い鶏舎は換気能力が低い。古い鶏舎ができた当時は、2.5kg/60日齢の生鳥生産を行っていたが、現在は鳥の能力が上がっており、2.9kg/48日齢として出荷している。

これを3.1kg/48日齢にしたいと考えているが、この体重となるためには十分な換気能力が必要となり、一定の体重の大きさにならなければ成績が上がらないので生産コストが高くなってしまふ。

##### (3) 労働力の課題

現在、従業員7名のうち高齢の方が2名( )で、今後の事を考えると若い人の雇用が必要である。また、今後の増羽を考えていくと、常勤できる正社員を雇用し、生鳥の管理体制をしっかりとしていく必要がある。

#### 5. 課題を改善させるための対策、効果

##### (1) 鶏糞の処理、良質な鶏糞の供給

新しい堆肥舎を増設することにより、生産後の鶏糞処理を旧堆肥舎と新堆肥舎で分散して行い、発酵処理が円滑にできることになることで、耕種農家へ良質な有機肥料を供給することが出来る。

また、新堆肥舎ができれば、旧堆肥舎と新堆肥舎の機械の作業スペースを確保することができ、ホイールローダーを導入して鶏糞攪拌を行い、好気発酵処理により、良質な発酵鶏糞を製造する。

(単位:t)

	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年
鶏糞の年間発生量 ①	500	680	680	680	750
現状の堆肥舎での鶏糞年間処理量 ②	500	380	380	380	380
増羽による不足量 ①-②		300	300	300	370
増設する堆肥舎での年間処理量		300	300	300	370

## (2)生産コストの削減

平屋の古い鶏舎(S47年建設)では換気量が少なく鳥が大きくならないため、平成31年にシステム鶏舎に建て替え、換気能力を向上させ、成績率の向上を目指す。

また、給水器がドリンカー給水器であり、ニップル給水器に変更して、きれいな水を飲ませることにより、育成率、要求率を改善し、成績を上げてコスト削減を図る。

①平均体重 平成27年:2.9kg/48日齢 → 平成31年:3.1kg/48日齢に改善

②育成率 平成27年:97% → 平成31年:98.5%に改善

③飼料要求率 平成27年:1.85 → 平成31年:1.75に改善

※育成率・入雛羽数に対して、何羽出荷できるかの指標

※飼料要求率・鳥1kg生産するために飼料が何kg必要になるかの指標

## (3)若い人材の雇用

現在、68歳と70歳の2名がパートとして飼育管理等重要な業務をいただいているが、今後退職されることや増羽に対応していくを考えて、正社員として新たに1名~2名は雇用しなければならないと考えてる。

また、兵庫県から従業員を採用し鳥取で仕事をさせるのではなく、地元大山町から雇用することにより地域貢献していきたいと考えている。

新規雇用	H27(実績)	H28	H29	H30	H31
正社員	(1)	2(3)	1(4)	1(5)	(5)
パート	(4)	▲1(3)	▲1(2)	▲1(1)	(1)

※( )は総従業員数

※工場責任者は除く

・H29年は■■■■、H30年には■■■■のパートの従業員が退職されるとして、それぞれ新たに正社員1名を採用予定。

6. 今後の経営目標と具体的内容

(1)生産羽数の増加

品目	H27(実績)	H28	H29	H30	H31
ブロイラー(羽)	332,000	456,000	456,000	456,000	500,000

\* 28年度は新鶏舎3棟増設により増羽

\* 31年度は現行の開放鶏舎9棟が古く成績が上がらないため、建替えて増羽予定

(2)販売羽数の増加

現在の生鳥の販売先は、京都府、兵庫県、大阪府への販売が中心であるが、鳥取産としての受け入れ要望のある鳥取県内の [ ] への販売に出来る限り出荷して、地域産業の発展に貢献していきたいと考えている。

販売先	販売羽数				
	H27(実績)	H28	H29	H30	H31
京都府3社	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
兵庫県1社	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
大阪府1社	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
合計	332,000	456,000	456,000	456,000	500,000

(3)地域への良質な堆肥の安定供給

①地域耕種農家(ブロッコリー、白ネギ等)へ、好気発酵した悪臭が少なく良質な堆肥を供給する。

②現在、 [ ] へ牛糞堆肥製造のための発酵鶏糞を供給しているが、現在より悪臭が少ない好気発酵した鶏糞の要望を受けており、新たな堆肥舎で好気発酵処理した鶏糞堆肥を供給する。

(単位:t)

堆肥供給先	H27(実績)	H28	H29	H30	H31
耕種農家	150	150	150	150	200
[ ]	350	530	530	530	550
合計	500	680	680	680	750

## 7. 今後の具体的な取り組みと役割分担

### ・機械、施設の導入計画

事業内容	事業費(千円)	H28	H29	H30	連携期間
堆肥舎新設 (9m×18m)	9,483	◎			県・町・本人
ホイールローダー	5,585		◎		県・町・本人
合計	15,068	9,483	5,585		

### ・事業者としての取組

取組内容	H28	H29	H30	連携期間
生産羽数の増加	○			本人
雇用の創出	○	○	○	本人
県内業者への販売羽数増	○	○		本人
良質な堆肥の安定供給	○	○	○	県・町・本人・その他

\* ◎はがんばる農家プラン事業で行うもの。

\* ○は、自主的に取り組むもの。

\* がんばる農家プランで行う事業の本人負担部分については、自己資金を活用予定。